

風 か ほ る

校長 石原 健

不易と流行

教育における不易と流行ということが言われます。恐らく1997年中央教育審議会答申（二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方について）がこの言葉を用いてから、教育界でよく耳にするようになった言葉です。多くの方が何処かで聞いたことがある言葉ではないでしょうか。もともとは、松尾芭蕉が俳論として「不易と流行は一体なり」と言ったところに由来するとのことであるそうです。確かに両方とも大切であり、本来、一つのもので、教育における不易と流行も一体であると思います。

（教育の）不易と流行については、先述の中央教育審議会答申では、次のように記されています。

- ①不易「時代を超えて変わらない価値のあるもの」…豊かな人間性、正義感、公正さを重んじる心、自立と協調、思いやり、人権尊重、自然愛など、いつの時代、どこの教育においても大切にされなくてはならないもの。また、自分の国の言語、歴史や伝統、文化を大切にする心。
- ②流行「時代の変化とともに変えていく必要のあるもの」…国際化や情報化などの社会の変化、科学技術などの進歩などに柔軟かつ的確に対応していく資質や能力。

現在、学校はICT機器の発達により、リモート授業をはじめとして、今までの学校には存在しなかった形態での授業も行われるようになってきています。そんな中、我々教師は学校教育の不易の部分である「学力を身につけさせる（知識と技能の提供）」と「人間的成長を促す（人格教育）」等をしっかりと実践していくことが学校の役割です。

一方で家庭教育に目を向ければ、「何かしてもらったらお礼を言う（ありがとう）」、「迷惑をかけたら謝罪をする（ごめんなさい）」という俗に躰と言われる部分は不易であり、その躰の中でも最近で言えば「スマホの使い方に関わる内容」は流行の部分ではないでしょうか。

学校も家庭も、「変わらぬものを変わらぬ方法で教えていく」ことも大切ですが、「変わらぬものを変わりゆく時の流れに合わせ、その時代に応じた新たな価値を加えて改めて認識させていく」と



いう視点を持って子供たちの成長を見守り、支援していくことも大切なのではないでしょうか。（参考：魚津市教育センターだより）

※左の写真は埼玉県学力学習状況調査のものとなります。以前は紙の調査（テスト）用紙でしたが、現在はクロムブックを使用して調査を行っています。（こちらも不易と流行ですね）

PTA 総会、愛校会総会が行われました

PTA総会が5月2日（金）書面開催で、愛校会総会が5月16日（金）に南陵中学校にて開催されました。いずれも原案が可決され、令和7年度の新役員によるスタートを切りました。昨年まで、ご尽力いただいた関係者の皆様、1年間ありがとうございました。

PTA会長さん、愛校会会長さんをはじめとする新役員の皆様、お忙しい中、役員をお引き受けいただきありがとうございます。1年間、南陵中学校の子供たちのために、お世話になります。よろしくお願いいたします。



「心のエネルギープロジェクト」にあたって

所沢市では、「子どもたち一人一人は、かけがえのない存在であり、誰もが夢や希望を持てるようにしたい」、「自分自身と同じように、他の人も大切にしてほしい」との願いから6、7月を「心のエネルギープロジェクト」月間として各校で取り組みをしています。

私たちだれもが、家族をはじめ、多くの人から生まれてきたことを喜んでもらい、多くの人の中で育ってきました。ところが、思春期ともなると、自分を客観視するようになり、そのため自分と他人の比較による優劣で自分自身をみてしまいがちにもなります。あらためて、私たち大人が、「あなたはひとりひとり大切な存在である」との思いを伝えていくことが必要で、子供たち一人一人が、自分はこれでいいんだという自尊感情をもつことにつながると考えています。

忙しい毎日ではありますが、こうした機会をとらえて話題にしお子様の心に寄り添い、励まし、温かい思いを伝えていただくことで、ご家庭が子供たちにとっていっそう安心できる場所になるものと思います。

校内教育支援センターについて

所沢市教育委員会の研究指定を受け、6月より校内教育支援センター「マイプレイス」を開設いたしました。こちらは不登校や教室に馴染めない生徒が安心して過ごせる場所として設置されており、専属の支援員も配置されています。当センターについて詳細をお知りになりたい方は、教頭もしくは特別支援コーディネーターまでご連絡ください。

